

施工段階		下地・間仕切り		6	設備工事：			シート番号	
電気	空調	衛生	その他		天井内設備工事			6-2	
○	○	○	—						

ポイント

■天井面には多種の設備器具が取付けられる

- ・スプリンクラーヘッドのように法的に取付け間隔が決められているもの、照明器具や吹出口など快適環境維持のために距離が決められているものなどがあります。

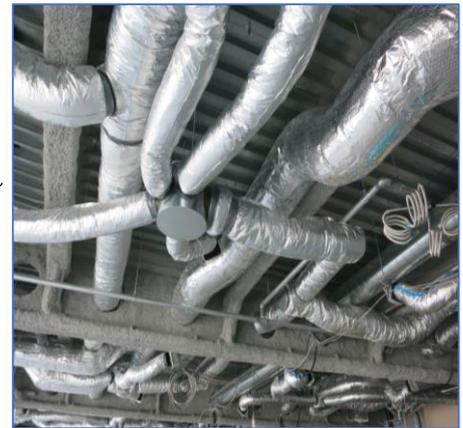
事前に天井伏図(シート6-1参考)を作成し確認する必要があります。

■隠蔽工事はルート確保が先決

- ・コンクリート打設時に、スリーブ・インサートによる適正なルート確保を行います。
- ・配管支持間隔が施工要領書通り行われているか確認します。

■軽量鉄骨天井と設備

- ・大型機器（空調機や照明器具など）は天井部材に直接荷重をかけられません。それぞれスラブより単独に吊りボルト等で支持します。吊りボルトが長いものは振れ止めを設けるようにします。
- ・天井伏図にて天井開口、開口補強の工事範囲を事前に確認します。
- ・天井点検口は主に設備機器の保守のために設けるので、必要な場所に必要なサイズの点検口の設置を建築担当者と検討します。



天井内設備 先行工事



天井器具 設置工事

先輩アドバイス

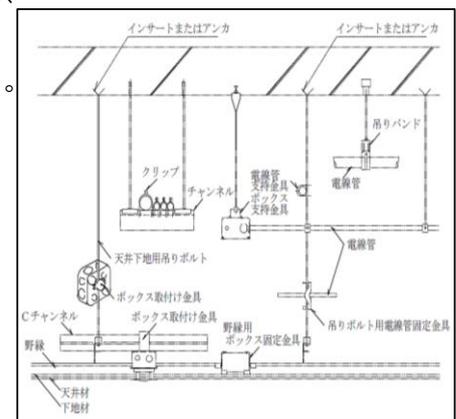
- ・工程を短縮させるために、天井内先行設備工事は非常に有効です。
- ・梁横断箇所がある場合は、事前に梁貫通スリーブを施工しておけば、天井内が狭くても先行して配管・ダクト工事が可能です。
- ・フレキシブルダクトの潰れや他設備との接触がないか確認すること。

チェック項目

- 施工図にて配管ルートの確認は行いましたか。
- 天井伏図にて取合いができていますか。
- 支持間隔は施工要領書通りになっていますか。
- 建築担当者と工事区分、点検口について調整しましたか。

失敗すると...

- ・仕上工事の終了した天井を解体し、配管・ダクトのやり直しなど、大きな手戻り工事が発生します。竣工間際の手戻りは工程に多大な影響を与えます。



天井内支持図

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	○	○	○	○	—	○	○	○	○
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂	2023年3月1日	